

Luxman

STEREO POWER AMPLIFIER

M-600A

Owner's Manual

このたびは、ラックスマンのステレオ・パワー・アンプリファイヤー M-600A をお求めいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前にこのオーナーズマニュアルをよくお読みになり、正しくお使いいただくことで本機の性能が十分に発揮され最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただけることと思います。

なお、お読みになった後は、保証書・安全上のご注意と共に大切に保管してください。

目 次

使用上の注意	3
各部の名称と用途	4
接続図／接続方法	10
M-600A BLOCK DIAGRAM	14
規格	15
アフターサービスと品質保証について	16
修理に出される前に	17

使用上の注意

アンプの置き場所について

換気や放熱が十分行われる場所に設置してください。

とくに、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなどの高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

通風孔について

本機は、A級アンプのため発熱量が多いので、天板・底板の通風孔は塞がないでください。

なお、ラックなどへ設置する場合は、十分な空間を取り、扉は開放して使用し、他の機器を積み重ねたり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。

天板の上部は20cm以上の空間を空け、左右は5cm以上の空間を空けてください。

底板の下部には4本の脚の高さの空間を空けてください。

また、通風孔は樹脂で作られておりますので、衝撃や荷重にはご注意ください。

入力機器接続時のご注意

本機にコントロールアンプなどの入力機器を接続するときには、本機と入力機器の電源スイッチを必ず切っておいてください。

本機と入力機器に電源が入っていると、大きな雑音が発生することがあります。

また、本機の入力端子に差し込むピンプラグはしっかりと差し込んでください。入力機器の出力端子に差し込むピンプラグも同様です。

ピンプラグのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N比が悪化する原因になります。

スピーカー接続時のご注意

スピーカー・システムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子のところで、⊕⊖間がショートすることのないよう十分に注意してください。ショートしたままアンプに大信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

保護回路について

本機にはアンプやスピーカー保護のため、過電流検出、異常高温検出、DCドリフト検出による保護回路を設けています。この保護回路が動作した場合、スピーカー端子への出力を中断するとともに、レベル・メーターが点滅し、本機がミュート状態に入ったことを表示します。保護回路が動作した原因が

消滅するとスタンバイ・インジケーターが消滅し、動作状態に復帰します。保護回路がたびたび動作するときは、弊社サービスセンターにご相談ください。

アンプ電源 ON 後すぐには音が出ません

本機には、電源オン後アンプが安定した状態になるまでの間、入・出力回路を切り離すタイム・ミュート回路が組み込まれていて、オペレーション・インジケーターを青色に点滅させ、メーター表示の明るさを徐々に明るくすることで準備動作中であることを示します。

このタイム・ミュート回路が動作している間にコントロールアンプなどの入力機器の音量ボリュームを大きな値に設定していると、本機が動作状態になったときに急に大きな音が出てくることになります。

コントロールアンプなどの入力機器の音量ボリュームは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてからお好みの音量に調節してください。

外装パネルの温度について

本機はA級アンプなので外装パネル特にトップパネルのベンチレーション付近が高温になります。長時間にわたって顔や手足などを本機の外装パネルに接触させていると低温火傷をする恐れがあります。

長時間の外装パネルへの接触はおやめください。特に幼児が接触できないような場所に設置してください。

修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービスセンターへご依頼ください。

お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れのひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。

なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

安全上のご注意



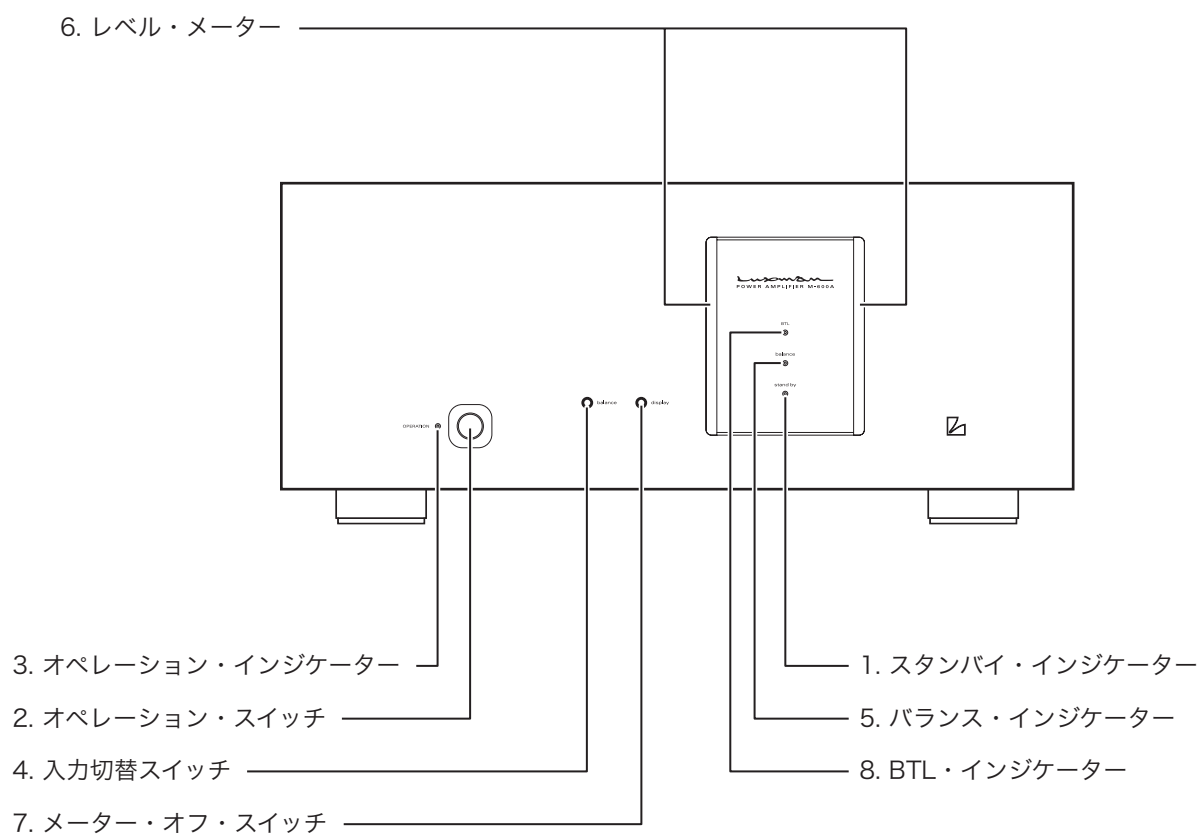
警告



本機は重いので開梱や持ち運び、設置は、必ず2人以上で行ってください。1人で行うとけがの原因となることがあります。

各部の名称と用途

フロントパネル



1. スタンバイ・インジケータ－／stand by

リアパネルにあるメイン電源スイッチを ON にすると、このインジケータ－が黄色に点灯し、スタンバイ状態になったことを示します。メイン電源スイッチを OFF にすると、このインジケータ－が消灯して、シャットダウン状態であることを示します。

2. オペレーション・スイッチ／OPERATION

スタンバイ状態のときにこのスイッチを押すとスタンバイ・インジケータ－が消灯し準備動作に入ります。一定時間（約 15 秒）経過すると各モードの設定が表示され、動作状態になります。動作状態のときにもう一度このスイッチを押すとスタンバイ状態になります。

3. オペレーション・インジケータ－／OPERATION

スタンバイ状態のときにオペレーション・スイッチを押すと青色に点滅して準備動作中であることを示します。一定時間（約 15 秒）経過すると青色に点灯して動作状態であることを示します。動作状態のときにもう一度オペレーション・スイッチを押すとこのインジケータ－が消灯しスタンバイ・インジケータ－が点灯します。

4. 入力切替スイッチ／balance

リアパネルにあるアンバランス入力端子 LINE とバランス入力端子 BAL LINE を選択する入力セレクタースイッチです。

・ 1 回押すたびに LINE ⇄ BAL LINE と変化します。

工場出荷時は、LINE に設定されています。

このスイッチを切り替えると入力ミュート回路が作動し、約 0.8 秒間、音が出ません。

5. バランス・インジケータ－／balance

選択されている入力を表示します。

・ LINE が選択されているときは、消灯します。

・ BAL LINE が選択されているときは、青色に点灯します。

6. レベル・メータ－

本機には出力レベルの変化を表示するレベル・メータ－が四角い溝の左右に設置されています。向かって左側が L チャンネルの変化を表示し、右側が R チャンネルの変化を表示します。それぞれ黄色の光柱の上部がメータ－の上下方向に変化することで出力レベルの大きさを表現します。

・ 準備動作中は、左右の溝全体が消灯から黄色全灯まで約 13 秒かけて徐々に明るくなり、最後の 2 秒間全灯した後（約 15 秒）、溝全体が暗い状態（黄色のバックアップ照明）に変化します。

・ 動作中は、無信号時のバックアップ照明から出力レベルが定格の -48dB になるとメータ－の最下部が点灯し、出力レベルが定格になるとメータ－の最上部まで点灯します。

各部の名称と用途

7. メーター・オフ・スイッチ / display

このスイッチを押すことで、レベル・メーターの明るさを4段階に変化させることができます。
・1回押すたびに暗くなり、最後には消灯となります。

工場出荷時は、明るいに設定されています。

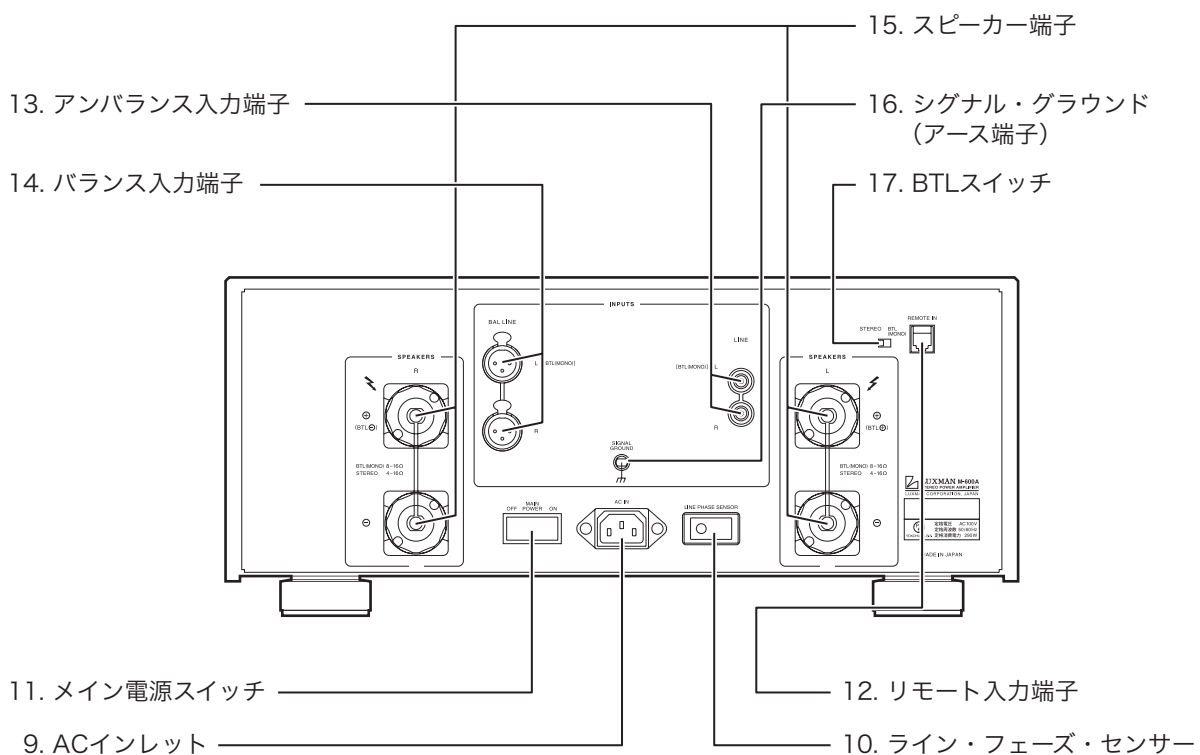
8. BTL・インジケーター / BTL

リアパネルにあるBTLスイッチをBTL(MONO)側にするとこのインジケーターが青色に点灯し、本機がBTL接続のモノラルアンプになったことを示します。BTLスイッチをSTEREO側にするとこのインジケーターは消灯し、本機がノーマル接続のステレオアンプになったことを示します。

工場出荷時は、消灯(STEREO側)に設定されています。

各部の名称と用途

リアパネル



各部の名称と用途

9. AC インレット / AC IN

付属の電源ケーブルの穴の3つ開いている方を本機の AC インレットにしっかり差し込みます。電源は AC100V 家庭用コンセントをご使用ください。

10. ライン・フェーズ・センサー / LINE PHASE SENSOR

電源ケーブルを AC コンセントに差し込むときに、電源の極性を確認するセンサーとインジケータです。

電源ケーブルを本機の AC インレットと AC コンセントに差し込んだ後に指でセンサーに軽く触れ、インジケータが消えたままであれば正常な極性です。インジケータが点灯する場合は、AC コンセントへの電源プラグの差し込みを逆にしてください。

電源極性のチェックは、他の機器からの影響を取り除くため、他の機器との接続前におこなってください。

また、マンションなど、電源がフローティングされている場合は、極性が変化しないこともあります。このような場合は、どちらの極性にしても問題ありません。

11. メイン電源スイッチ / MAIN POWER

本機をスタンバイ状態にするためのメイン電源スイッチです。

このスイッチを ON にすると、フロントパネルにあるスタンバイ・インジケータが黄色に点灯し、本機がスタンバイ状態になったことを示します。

このスイッチを OFF にすると、フロントパネルにあるスタンバイ・インジケータが消灯し、シャットダウン状態になったことを示します。

12. リモート入力端子 / REMOTE IN

このリモート入力端子に専用リモート出力端子のあるコントロールアンプ (C-600f など) と専用リモート・ケーブルで接続してください。

メイン電源スイッチを ON にして本機をスタンバイ状態にしておくと、コントロールアンプのオペレーション・スイッチに連動して本機を動作状態にしたり、スタンバイ状態にすることができます。

13. アンバランス入力端子 / INPUTS LINE

ラインレベルのアンバランス音楽信号を入力するコアキシャル入力端子で、L チャンネルと R チャンネルの1系統用意されています。コントロールアンプなどの入力機器のアンバランス出力をピンプラグ・ケーブルを使用し接続してください。

LINE に入力された音楽信号は、フロントパネルにある入力切替スイッチで選択され出力されません。

BTL モードでは、L チャンネルのみ有効で、R チャンネルから入力された音は出力されません。

14. バランス入力端子 / INPUTS BAL LINE

ラインレベルのバランス音楽信号を入力するキャノンコネクター入力端子で、LチャンネルとRチャンネルの1系統用意されています。コントロールアンプなどの入力機器のバランス出力をバランス・ケーブルを使用し接続してください。

BAL LINEに入力された音楽信号は、フロントパネルにある入力切替スイッチで選択され出力されます。

本機のバランス入力端子のピン番号と入力信号との関係を下記に示します。

- 1ピン = GROUND
- 2ピン = COLD (-)
- 3ピン = HOT (+)

正しく音楽再生を楽しむ為に、コントロールアンプなど入力機器のバランス出力のピン番号と出力信号の関係を本機のバランス入力端子のピン番号と入力信号との関係に合わせてください。

BTLモードでは、Lチャンネルのみ有効で、Rチャンネルから入力された音は出力されません。

15. スピーカー端子 / SPEAKERS

左側のスピーカー・システムに接続したスピーカー・ケーブルを本機のスピーカー端子のL側に、右側のスピーカー・システムに接続したスピーカー・ケーブルを本機のスピーカー端子のR側に、それぞれ確実に接続します。

そして、スピーカー・システムの⊕側端子を本機のスピーカー端子の⊕側(赤)端子に、スピーカー・システムの⊖側端子を本機のスピーカー端子の⊖側(黒)端子に、確実に接続してください。

なお、本機に接続されるスピーカー・システムは、4Ω～16Ωのインピーダンスのものがご使用になれます。

BTLモードでは、本機はモノラル・パワー・アンプになりますので、左右どちらかのスピーカー・システムしか接続できません。ステレオ再生をする場合はもう1台のM-600Aが必要になります。BTLモードでの接続は、スピーカー・システムの⊕側端子を本機のL側スピーカー端子の⊕側(赤)(BTL⊕)端子に、スピーカー・システムの⊖側端子を本機のR側スピーカー端子の⊕側(赤)(BTL⊖)端子に、確実に接続してください。

なお、本機に接続されるスピーカー・システムは、BTLモードの場合、8Ω～16Ωのインピーダンスのものがご使用になれます。

16. シグナル・グラウンド (アース端子) / SIGNAL GROUND

本機に接続する機器のアース用端子です。

この端子は、他の機器を接続した場合の雑音低減をはかるためのもので、安全のためのアースではありません。

17. BTLスイッチ / BTL (MONO)

このスイッチをBTL (MONO)側にスライドすると本機は、BTL接続のモノラル・パワー・アンプになります。

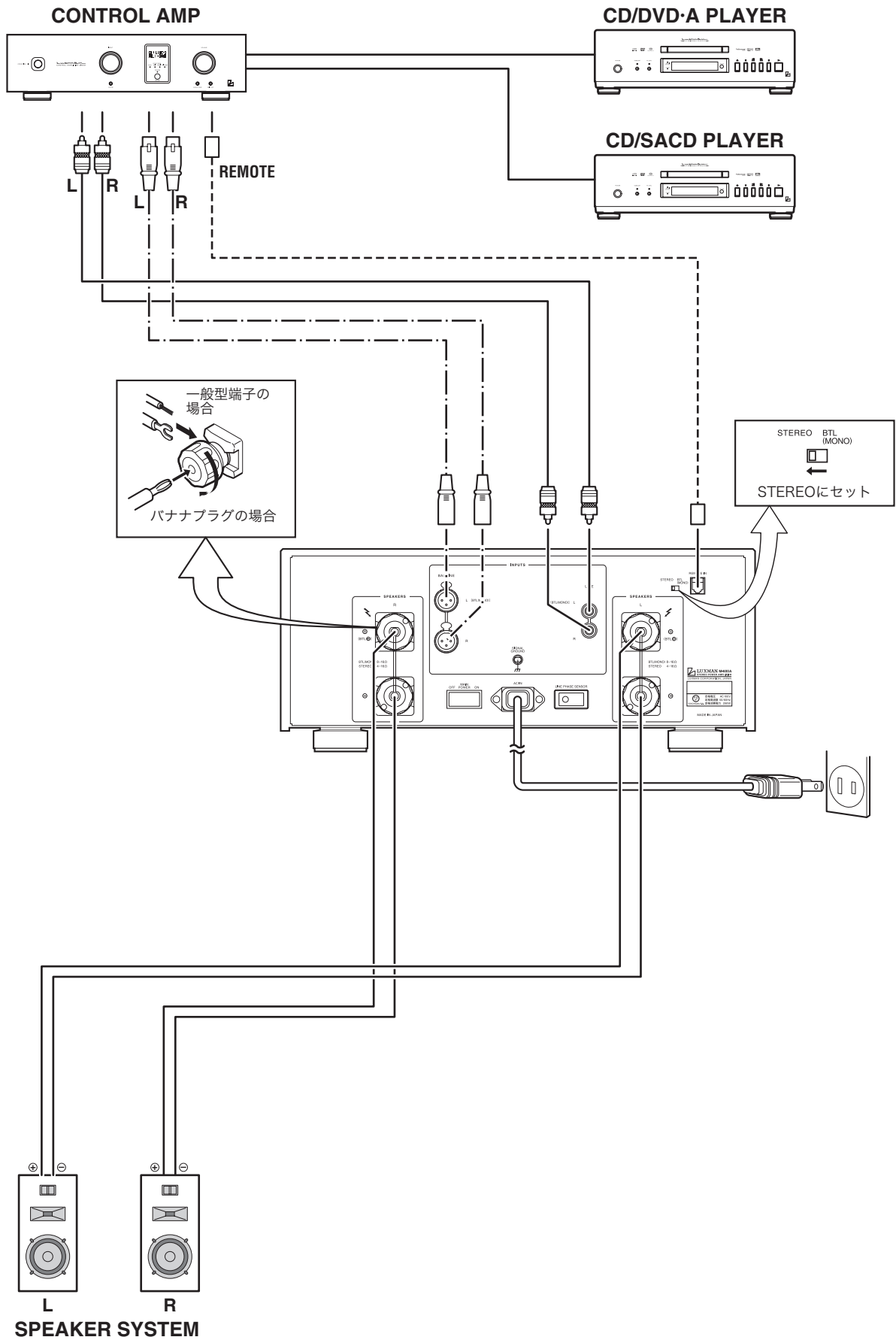
このスイッチをSTEREO側にスライドすると本機は、ノーマル接続のステレオ・パワー・アンプになります。

工場出荷時は、STEREO側に設定されています。

このスイッチを切り替えると入出力ミュート回路が作動し、約1.2秒間、音が出ません。

接続図

通常ステレオ再生



接続方法

接続する前に

他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック側（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニング・ルームなどにある AC100V コンセントに差し込んでください。

電源ケーブルを差し込むときには、ライン・フェーズ・センサーを指先で軽く触れ、インジケータが消える方向に差し込んでください。

マンションなどのコンセントでは、AC プラグを差し替えても点灯したまま、消えたままのことがあります。この場合、どちらの方向でもかまいません。

入力端子とコントロールアンプなどの入力機器との接続

コントロールアンプなどの入力機器の出力端子と本機の入力端子の間を、ピンプラグ・ケーブルあるいはバランス・ケーブルで接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように十分注意し接続してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

また、ピンプラグ・ケーブルをご使用の場合は、ピンプラグ・ケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

本機に接続する入力機器の出力インピーダンスが十分低い場合は、接続ケーブルの長さを特別気にする必要はありませんが、出力インピーダンスの高い入力機器と組み合わせてご使用の場合は、不必要な高域の減衰を避ける為に、できるだけ短い接続ケーブルをお使いになることをおすすめします。

リモート入力端子とコントロールアンプとの接続

C-600f などラックスマンのコントロールアンプのリモート出力端子と本機のリモート入力端子を本機に付属している専用リモート・ケーブルで接続します。

これにより、コントロールアンプのオペレーション・スイッチに連動して本機を動作状態にすることができます。

専用リモート・ケーブルは、本機とラックスマンのコントロールアンプの接続以外に使用しないでください。本機のリモート入力に 12V を超えるような大きな電圧を供給できる端子に接続すると故障の原因となります。

スピーカー端子とスピーカー・システムとの接続

左側のスピーカー・システムに接続したスピーカー・ケーブルを本機のスピーカー端子の L 側に、右側のスピーカー・システムに接続したスピーカー・ケーブルを本機のスピーカー端子の R 側に、それぞれ確実に接続します。そして、スピーカー・システムの ⊕ 側端子を本機のスピーカー端子の ⊕ 側（赤）端子に、スピーカー・システムの ⊖ 側端子を本機のスピーカー端子の ⊖ 側（黒）端子に、確実に接続してください。

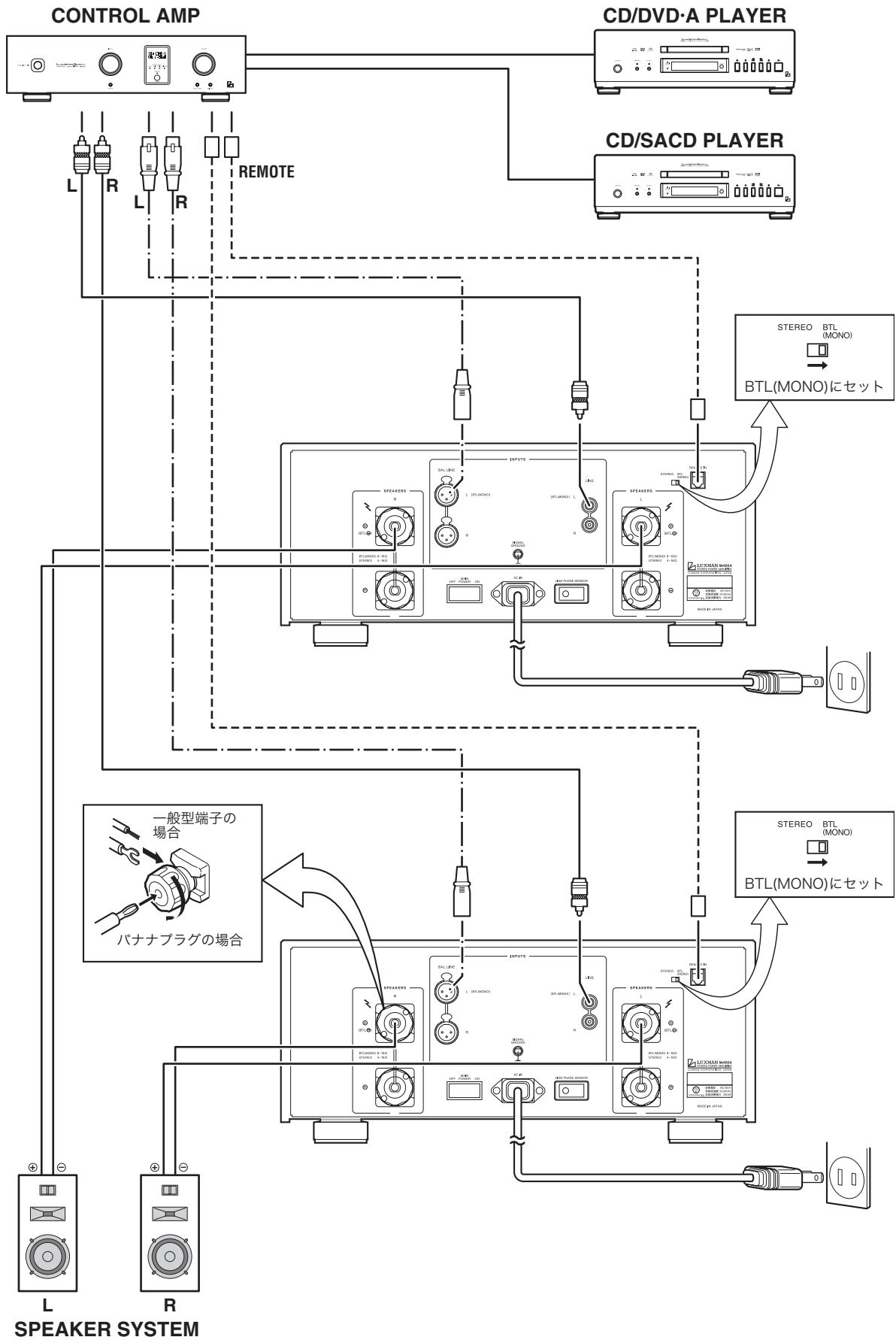
このとき、左右スピーカー・システム的一方だけ+端子と-端子を逆に接続すると、左右のスピーカー・システムから再生される音波の位相が逆になり、低音が減少したり音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなりますので十分な注意が必要です。

過大入力からアンプとスピーカーを保護するために、本機と入力機器を接続する場合、本機とスピーカー・システムを接続する場合は、本機のメイン電源スイッチを OFF にするか本機をスタンバイ状態にしてください。

接続完了後に正しく接続されていることを確認してから本機を動作状態にしてください。

接続図

BTL ステレオ再生



接続方法／BTL ステレオ再生

入力端子とコントロールアンプなどの入力機器との接続

BTL モードでは、本機の入力端子のうち L チャンネルのみ有効となり、R チャンネルに入力した音楽信号は出力されません。アンバランス入力端子がバランス入力端子の L チャンネル側に音楽信号を入力してください。

また、本機はモノラル・パワー・アンプになりますので、ステレオ再生を楽しむ為にはもう 1 台の M-600A が必要になります。

左側のスピーカー・システムを接続した M-600A が L チャンネルのパワーアンプに、右側のスピーカー・システムを接続した M-600A が R チャンネルのパワーアンプになりますので、コントロールアンプなどの入力機器の L チャンネル出力を L チャンネル側パワーアンプの L チャンネル入力端子に、入力機器の R チャンネル出力を R チャンネル側パワーアンプの L チャンネル入力端子に接続します。

このとき、左右のチャンネルを逆に接続しないように十分注意し接続してください。左右のチャンネルを逆に接続すると音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなります。

また、ピンプラグ・ケーブルのアース側が浮いているとハムなどの雑音が発生し、S/N 比が悪化する原因となります。接続プラグは確実に押し込んで接続してください。

本機に接続する入力機器の出力インピーダンスが十分低い場合は、接続ケーブルの長さを特別気にする必要はありませんが、出力インピーダンスの高い入力機器と組み合わせてご使用の場合は、不必要な高域の減衰を避ける為に、できるだけ短い接続ケーブルをお使いになることをおすすめします。

スピーカー端子とスピーカー・システムとの接続

BTL モードでは、本機はモノラル・パワー・アンプになりますので、ステレオ再生を楽しむ為にはもう 1 台の M-600A が必要になります。左側のスピーカー・システムに接続した M-600A が L チャンネルのパワーアンプに、右側のスピーカー・システムに接続した M-600A が R チャンネルのパワーアンプになります。

左右パワーアンプと左右スピーカー・システムとの接続は同様で、スピーカー・システムの ⊕ 側端子を M-600A の L 側スピーカー端子の ⊕ 側（赤）（BTL⊕）に、スピーカー・システムの ⊖ 側端子を M-600A の R 側スピーカー端子の ⊕ 側（赤）（BTL⊖）に、それぞれ確実に接続します。

このとき、左右スピーカー・システム的一方だけ+端子と-端子を逆に接続すると、左右のスピーカー・システムから再生される音波の位相が逆になり、低音が減少したり音像定位が悪くなるなど正常なステレオ再生ができなくなりますので十分な注意が必要です。

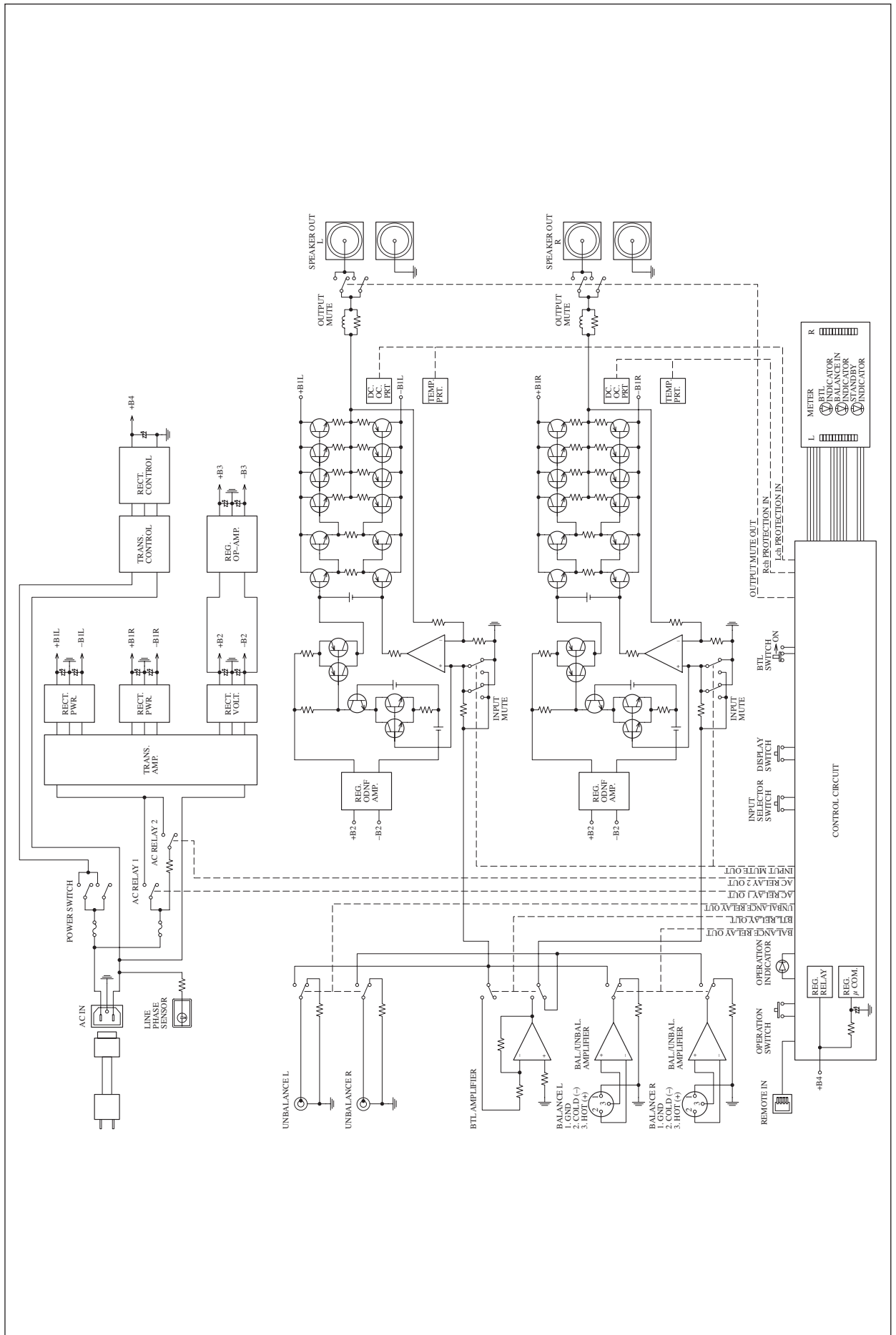
スピーカー切り替えスイッチボックスのなかには、スピーカー端子の ⊖ 側が共通グラウンドに接続されているものがあります。本機が BTL モードの場合、本機の反転出力側がスイッチボックスの共通グラウンドにショートされ過大電流が流れることとなります。保護回路が作動しますが、故障の原因になりますので、このようなスイッチボックスは使用しないでください。

BTL モードの場合は、直接スピーカー・システムと接続するか、スピーカー端子の ⊖ 側も独立して切り替わるスイッチボックスを使用してください。

過大入力からアンプとスピーカーを保護するために、本機と入力機器を接続する場合、本機とスピーカー・システムを接続する場合は、本機のメイン電源スイッチを OFF にするか本機をスタンバイ状態にしてください。

接続完了後に正しく接続されていることを確認してから本機を動作状態にしてください。

M-600A BLOCK DIAGRAM



規 格

連続定格出力（ノーマル）	30W / 負荷 8 Ω 60W / 負荷 4 Ω
連続定格出力（BTL）	120W / 負荷 8 Ω
瞬時最大出力（ノーマル）	240W / 負荷 1 Ω
瞬時最大出力（BTL）	480W / 負荷 2 Ω
入力感度	550mV / 30W 負荷 8 Ω GAIN 29.0dB
入力インピーダンス	UNBALANCE 51k Ω BALANCE 67k Ω
全高調波歪	0.009% / 1kHz・30W 負荷 8 Ω 0.1% / 20Hz ~ 20kHz・30W 負荷 8 Ω
周波数特性	+ 0, - 0.2dB / 20Hz ~ 20kHz + 0, - 3.0dB / ~ 130kHz
S/N 比	114dB (IHF-A)
付属装置	メイン電源スイッチ スタンバイ・インジケータ オペレーション・スイッチ オペレーション・インジケータ 入力切替スイッチ バランス・インジケータ BTL・スイッチ BTL・インジケータ レベル・メーター メーター・ディスプレイ・スイッチ アンバランス入力端子 1 系統 バランス入力端子 1 系統 スピーカー端子 1 系統 シグナル・グラウンド端子 リモート入力端子 ライン・フェーズ・センサー AC インレット
付属品	電源ケーブル 専用リモート・ケーブル オーナーズマニュアル 保証登録書 安全上のご注意
消費電力	290W（電気用品安全法による規定） 290W（無信号時） 3.8W（スタンバイ時）
電源電圧	AC100V（50 / 60Hz）
最大外形寸法	440（W）× 189（H）× 420（D）
重量	26.5kg（NET）

※ 規格および外観は予告なく変更することがあります。

アフターサービスと品質保証について

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービスセンターまたはお求めの販売店までご連絡ください。状況に応じた主張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。ご容赦ください。

M-600A の保証期間は、購入日より起算して2年間です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。

保証登録書は、本機のパッキングケース内に入っていますので、お買い上げの販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。後日、保証書を発送させていただきます。

保証期間内の修理お申し付けの節は、必ず弊社発行の保証書を添えて下さい。保証期間外、保証書がない場合の修理については実費でお引き受けいたします。

修理に出される前に

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通りご確認ください。

故障の原因がわからない場合は、弊社サービスセンター、もしくはお求めの販売店へお問い合わせください。

なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくとも点検代、出張費などを戴くことがあります。

症 状	原 因	対 策
メイン電源スイッチを押しても電源が入らない。 スタンバイ・インジケーターが点灯しない。	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグがACコンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。 電源プラグがACインレットから外れているか、確実に差し込まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグをACコンセントへ確実に差し込む。 電源プラグをACインレットへ確実に差し込む。
オペレーション・スイッチを押してもオペレーション・インジケーターが点灯しない。	<ul style="list-style-type: none"> メイン電源スイッチがOFFになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> メイン電源スイッチをONにしてスタンバイ・インジケーターを点灯させる。
電源が入り、動作状態になり、オペレーション・インジケーターも青色に点灯するが、音がでない。	<ul style="list-style-type: none"> 接続した入力端子と選択した入力設定があっていない。 コントロールアンプの出力設定があっていない。 接続が確実に行われていない。 コントロールアンプのボリューム・コントロールが絞りが切られている。 	<ul style="list-style-type: none"> アンバランス入力に接続した場合は、入力切替スイッチでアンバランスに、バランス入力に接続した場合は、入力切替スイッチでバランスに設定する。 アンバランス入力に接続した場合は、コントロールアンプの出力設定をアンバランスに、バランス入力に接続した場合は、コントロールアンプの出力設定をバランスにあわせる。 接続を確実に行う。 コントロールアンプのボリューム・コントロールをお好みの音量に調節する。
音はでるが、音量が小さい。 片チャンネルだけ音量が小さい。 音像定位がおかしい。 低音がでない。 音楽がおかしい。	<ul style="list-style-type: none"> BTL接続をしているが、BTLスイッチがSTEREOになっている。 ノーマル接続をしているが、BTLスイッチがBTL(MONO)になっている。 コントロールアンプのバランス・コントロールが、片側によっている。 LチャンネルとRチャンネルの接続が逆になっている。 片側のスピーカー・システムの⊕⊖が逆に接続されている。 	<ul style="list-style-type: none"> BTL接続をした場合は、BTLスイッチをBTL(MONO)にする。 ノーマル接続をした場合は、BTLスイッチをSTEREOにする。 コントロールアンプのバランス・コントロールをお好みに調節する。 LチャンネルとRチャンネルを正しく接続する。 左右のスピーカー・システムとも⊕⊖の接続を正しくする。
メーターが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> メーター・オフ・スイッチが消灯に設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> メーター照明をお好みの明るさに調節する。
ハム音（ブーン、ジーというノイズ）がでる。	<ul style="list-style-type: none"> 接続ケーブルのアース側が接触していない。 他機器の電源トランスからの誘導ノイズを受けている。 入力ケーブルとスピーカー・ケーブルが電源ケーブルに接近しすぎている。 オーディオ・システムのなかで、電源ケーブルを通じて接地されているセットがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続を確実に行う。 他機器から離して設置する。 入力ケーブルとスピーカー・ケーブルを電源ケーブルから離す。 接地されているセットの電源ケーブル・プラグに3P→2P変換アダプターをつける。

MEMO

